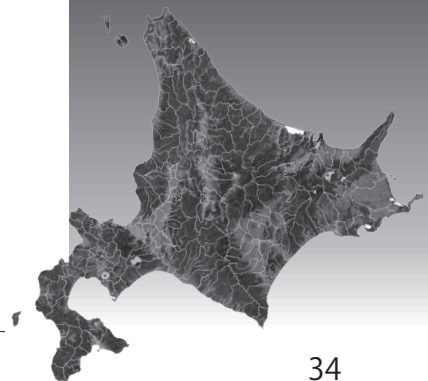


経営と健康

第3回

北海道名付け親・松浦武四郎

講談師 一龍斎貞花



止するべきと思いますが、如何ですか。

調査記録・絵図の作成

「松浦様が、またござったぞ」

皆と煙草を吸い、共に食べ、アイヌ語を話す武四郎を、アイヌの人達は信用し、行く先々で暖かく迎えてくれる。

そんな武四郎に日本人は、

「あなたはなぜアイヌと同じように振る舞うのだ。アイヌ語をしゃべり、同じ物を食べるなど和人のやることではありませんぞ」

「イヤ外国人が、この海岸をしばしば測量しているのは、諸国が蝦夷地を狙っているからで、実に危険極まりない。国を思う志のある者は、その地理・風土をよく知らなければいけないのだ」

と、強い気持ちで己の信ずる道を進

いの開けた道を、大名行列のような気分で行くだけだが、私は川を廻り、奥地に住む人の人情や産物を調べ、いずれ国のために役立てたい。」
こうした志を持って克明に調べ、膨大な記録を残していったのです。

幕府が、アイヌ人に対する方針をまとめた、蝦夷地御用趣意書が残っております。
一、行く行くはアイヌの人に耕作の道を教え、穀類は肉類より尊いものと教育致すこと。

一、アイヌの人々に、いささかなりともいつわりをしてはならぬ。
一、アイヌの人々を、人足などに使う場合、賃金は少しの間違いもなく支払ひ、良く働く者には、賃金のほか、酒、飯、煙草などをつかわすこと。

一、アイヌの人々が、病気になる場合

松浦武四郎北の大地三回目の旅は、クナシリ、エトロフなど千島探索。

アイヌの言葉もかなり出来るようになり、三十二歳の武四郎は立派な蝦夷通と知られるようになりました。

当時江戸には、蝦夷通と言われる人が何人もいたが、いずれも松前か、箱館（函館）にちよいと行っただけで、一人前の顔をしていません。

（講釈師と同じです）

武四郎は、物見遊山の気持ちは全くなく、

「これまでの蝦夷巡察隊は、海岸沿

んだのでございませぬ。

三度の蝦夷地調査を終え、江戸へ戻った武四郎は、嘉永三年（一八五〇）二月から、調査記録の作成にかかり、

「初航蝦夷日誌」 十二冊

「再航蝦夷日誌」 十五冊

「三航蝦夷日誌」 八冊

計三十五冊を一年で完成、

これらの調査記録が、水戸徳川家に献上されるとすぐ評判になり、各地の大名から貸してほしい、写しがほしいと依頼され、幕府へも献上。

また蝦夷地と周辺地域の地理と歴史をまとめた「蝦夷大概図」「蝦夷沿革図」という、二種類の小型地図を出版し、各地の知識人の評判となりました。

ことに「東西蝦夷山川地理取調図」は、どこに山があり、川はどのように流れているか、どんな地名がつけられているか。アイヌ語をカタカナで表した9800に及ぶ地名の地図を26枚に分割。これを一つにまとめると縦約2・4メートル、横約3・6メートル。北海道から国後島、択捉島まで描いた詳細な地図。樺太の地図も描いており、伊能忠敬以上の地図とも言われています。

松前藩は、

「武士でも学者でもない者が、藩の内情を発表し、地図を作るとは何事」「そうだ。これが幕府の目に触れればまずい。あ奴を生かしてはおけん」と、命を狙われることしばしば。

嘉永六年、ペリーが黒船を率いて浦賀の沖に姿を現すや、日本中大騒ぎ。

吉田松陰が、武四郎を訪ねてきて、「蝦夷地のことを是非お聴きしたい。他国の動きはどうなっていますか」

武四郎は、ロシアの動きなど説明。

吉田松陰は、幽閉されている時に書いた「幽囚録」の中で、

「蝦夷・北海道の地を開墾して諸侯を配置し、隙に乗じてカムチャツカ、オホーツクを奪い、琉球を論じて内地の諸侯同様参勤させ、朝鮮を攻めて人質を取って日本の朝廷に貢物を持って挨拶にこさせ、北は満州の地を割き取り、南は台湾、ルソンを攻め、漸次進取の勢いを示せ」

と、強硬論。強い日本を作りたいという気持ちを持ち、蝦夷にも目を向けている。

松陰の他にも藤田東湖、鷲津毅堂、

梁川星巖、頼三樹三郎ら幕末の有名志士との交流。松浦武四郎という人が、蝦夷地の第一人者としていかに重要視されていたかが判ります。

ロシアの軍艦が、国境設定の談判に長崎を訪れるや、水戸斉昭を中心に

「蝦夷地を再び幕府の直轄にすべきである。松浦武四郎を幕府に登用すべきである」

と、何度も働きかけたがその都度、松前藩に反対され実現しません。

ロシアが、二島返還ちらつかせながらおいしい条約を結ぼうとしているのが見え見え。一島でも返還反対のロシア国内の動きからも難しいとの見方がされているが、総理は、四回も五回もイヤ十回もとかロシアまでお出掛け。

第二次大戦中、アメリカ・ルーズベルト大統領とイギリス・チャーチル首相が、ソ連のスターリン首相を、クリミア半島ヤルタ島に呼び、

「ソ連は、日露戦争に負けて樺太を奪われ悔しいでしょう。この戦争に協力すれば樺太どころか千島列島をあげ

ますよ」スターリンは調子に乗って

「北海道の東半分を欲しい」と。

一年余り有効期間が残っていた日ソ不可侵条約を破って、対日戦争を布告し進攻、そして勝利者として千島列島を手に入れた。ロシアは江戸後期から蝦夷、千島を狙っていた歴史があるんです。明和八年カムチャツカに流刑になつていたハンガリー人、ベニヨフスキーが脱走し、長崎のオランダ商館長宛に、ロシア南下を警告。カピタンはただちに幕府に伝えたが、幕府はこれを黙殺。日本の外交下手は今に始まつたことではありませんね。

武四郎は、蝦夷、樺太、千島の大地図を完成させるや、まず水戸斉昭に続いて伊達家、出身伊勢の藤堂家などに献上。

松前藩は武四郎の命を執拗に狙い、そのため借家から本郷壱岐坂の長屋へ、と言つても実際は馬小屋。旅から旅の生活で家具がないとはいえ、いかに貧しかったがわかります。

幕府に登用され、蝦夷の名称変更に関する六つの提案をするという、次回最終回お楽しみに。パパン